

美術館評価とは

美術館が当該美術館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき美術館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立美術館では、平成 28（2016）年度から実施しています。

評価の方法

当館による自己評価と栃木県立美術館評議員会による外部評価があります。

自己評価は、目標の達成状況について定量的及び定性的評価を行います。

外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後の美術館運営のあり方について助言を行うものです。

1 定量的評価

達成度 A：100%以上 B：100%未満～70%以上 C：70%未満

項目		評価点	目標値 a	達成度 (b/a) %	評価	備考
			達成値 b			
1 調査研究関係	①	研究公開と 社会貢献回数	40	45.0%	C	
			18			
2 収集・保存関係	②	収集作品件数	19	289.5%	A	
			55			
	③	収集作品の貸出点数	70	54.3%	C	
			38			
3 展覧会関係	④	企画展開催回数	4	100.0%	A	
			4			
	⑤	企画展関連イベント回数	20	65.0%	C	
			13			
⑥	常設展展示替回数	4	100.0%	A		
		4				
⑦	アートリンク実施回数	2	50.0%	C		
		1				
4 普及教育関係	⑧	アートクルーズ来館学校 数	20	15.0%	C	
			3			
	⑨	イベント開催回数	12	100.0%	A	毎月1回以上
12						
⑩	県教委・あーと初等教育 関係団体との会議	3	100.0%	A		
		3				
5 施設設備関係	⑪	利便性向上等のための改 善箇所数	2	100.0%	A	
6 新たな取組関係	⑫	新規に取組んだ事業数	1	200.0%	A	
			2			
⑬	ボランティア増加人数	10	0.0%	C		
		0				
7 広報関係	⑭	収集作品情報の新規提供 数	12	183.3%	A	毎月1回以上
			22			
	⑮	ホームページアクセス件 数	200,000	166.0%	A	
			331,973			
⑯	SNSによる情報提供回数	60	473.3%	A	毎週1回以上	
		284				
⑰	年度及び企画展毎の広報 会議回数	5	100.0%	A		
		5				
8 入館者数関係	⑱	5カ年間の入館者数	275,000	74.0%	B	企画展及び常 設展の観覧者 数合計
			203,590			
	⑲	(単年度目安)	55,000	54.0%	C	
			29,684			
9 友の会・ショップ・レストラン 関係	⑳	友の会・ショップとの連 絡会議回数	2	350.0%	A	
			7			
	㉑	レストラン企画関連ラン チ提供回数	4	125.0%	A	
5						

2 定性的評価

達成度 A：91%以上 B：91%未満～70%以上 C：70%未満

評価項目 (チェック項目数)	チェック項目数×3 (a)	達成度 (b/a) %	評価	備考
	◎×3+○×2+△×1 (b)			
1 館運営全般 (9)	27	100.0%	A	
	27			
2 調査研究関係 (5)	15	93.3%	A	
	14			
3 収集保存関係 (7)	21	85.7%	B	
	18			
4 展覧会関係 (9)	27	92.6%	A	
	25			
5 普及教育関係 (10)	30	90.0%	B	
	27			
6 施設管理 (5)	15	93.3%	A	
	14			
7 中核機能関係 (6)	18	83.3%	B	
	15			
8 新たな取組関係 (6)	18	88.9%	B	
	16			
9 広報関係等 (7)	21	100.0%	A	
	21			
10 友の会関係等 (6)	18	100.0%	A	
	18			

定量的評価

定量的評価は、評価項目ごとに近年の実績の平均的数値等を踏まえて目標値を設定し、目標値に対する当該年度の実績値の割合（達成度）で評価したものである。

A：達成度 100%以上、B：達成度 100%未満～70%以上、C：達成度 70%未満

定性的評価

定性的評価は、評価項目（チェック項目）ごとに館員がその意識や姿勢等を自己評価し、その評価を、担当課長→副館長→館長の順に検討した上で最終評価としたものを点数化し、各項目の満点数に対する当該年度の得点数の割合で評価したものである。

A：達成度 91%以上、B：達成度 91%未満～70%以上、C：達成度 70%未満

〔◎：十分達成できた（3点）、○：概ね達成できた（2点）、△：達成不十分（1点）〕

3 評価結果一覧

区分	A評価	B評価	C評価
定量的評価項目 (21)	13項目	1項目	7項目
定性的評価項目 (10)	6項目	4項目	0項目

4 新たに取り組んだ事業等、改善した事業等

概 要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画展の動画配信とアバターによるVR体験の提供 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休館中に、美術館HPにおいて企画展の動画配信を実施した。 また、アバターロボットを使い遠隔で観覧する装置を試験的に導入し、小学生が教室内でVR体験する授業を提供した。 ○ キャッシュレス決済の導入 来館者の利便性向上のため、キャッシュレス決済を導入した。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画展の動画配信とアバターによるVR体験の提供 動画配信はコロナ禍で休館となった対応策として、VR体験は試験的に実施したものであるが、画質や操作性等改善する課題は多いものの、美術鑑賞の新たな手法として検討する上で大変有意義であった。 ○ キャッシュレス決済の導入 多くの来館者が利用しており、大変好評である。

5 自己評価総括

評 価	<p>(1) 定量的評価</p> <p>◎ 全体の 62%にあたる 13 項目が A 評価となったが、「⑱ 5 カ年間の入館者数」が B 評価に、「① 研究公開と社会貢献回数」など 7 項目が C 評価にとどまる結果となった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ C 評価の 7 項目は「① 研究公開と社会貢献回数」のほか、「③ 収集作品の貸出点数」「⑤ 企画展関連イベントの回数」「⑦ アートリンク」「⑧ アートクルーズ来館学校数」「⑬ ボランティア増加人数」「⑲ 入館者数（単年度目安）」であり、いずれも、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために実施した休館や県外への移動自粛等の影響により、実施回数や入館者数等が減少し、目標値を下回る結果となった。・ 今後も、感染症対策を施しつつ、適切な展覧会運営を図っていきたい。 <p>◎ 引き続き順調に推移している項目は、「⑮ ホームページアクセス件数」のうち、フェイスブック等の SNS である。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「ホームページアクセス件数」は 331,973 件で、新柄コロナの影響で、R1 年度（450,923 件）は下回ったものの、目標値 200,000 件に対し 166.0%の実績であった。・ フェイスブック等 SNS については、Facebook の「いいね」数や Twitter のフォロワー数が順調に増加している。・ 今後も魅力あるホームページにしていくとともに、積極的な情報発信に努めていきたい。 <p>(2) 定性的評価</p> <p>◎ A 評価が 6 件、B 評価が 4 件で、R1 年度と比較して 2 項目が A 評価から B 評価になり、1 項目が B 評価から A 評価になった。</p> <ul style="list-style-type: none">・ A 評価から B 評価となったのは「5 普及教育関係」「7 中核機能関係」であり、これも新型コロナウイルスの影響により、予定していたイベントが中止となったこと、他館との交流等が思うようにできなかったことによるものである。・ B 評価から A 評価になったのは「9 広報関係等」であり、定量評価でも触れたが、SNS を活用した広報が好評である。
--------	---

	<p>【評価総括】</p> <p>R2年度も、前年度の定量的評価・定性的評価において不十分であった項目について、それぞれ達成値の改善達成に向けて取り組んだ。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、入館者数等目標値を大きく下回った項目も多くなってしまった。</p> <p>引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、コロナ禍の制約の中で意欲的に事業に取り組み、幅広いファン獲得に向けて努力した。</p> <p>また、老朽化した施設・設備の計画的な改修など美術館のみでは対応できない大きな課題については、主管課である県民文化課等と協議・連携しながら検討及び対応を進めている。</p> <p>これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。</p>
課 題	<p>【今後の主な課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 開館 50 周年記念事業開催に向けた取組 ◆ 学校との連携の強化 ◆ 老朽化した施設・設備等の計画的整備
対 応 の 方 向	<p>【対応の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開館 50 周年を迎えられたことに対する県民への感謝の意を込めて、質の高い、そして多くの県民に感動を与えることができる、親しみやすい記念展の企画立案に努める。また、SNS の効果的な活用や広報対象を絞り込んだ戦略的な広報など情報発信力を強化し、入館者数のなお一層の増加に努めていく。 ■ 市町や学校教員へ美術館事業を積極的に情報提供し、具体的な連携策について検討を進める。 ■ 老朽化した施設・設備を適時・適切に改修し、美術館としての機能維持に努めるとともに、今後の美術館のあり方等を検討していく。

6 外部評価

令和2（2020）年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

1 学校教育との連携について

ICT の活用やギガスクール構想の導入により、学校の授業と美術館が双方向でつながる環境が整いつつあることをチャンスと捉え、学校に対して積極的に鑑賞教育等の提案を行ってほしい。

2 コロナ禍における魅力発信について

コロナ禍であるからこそ、HP や SNS を活用した情報発信をより積極的に行うとともに、県民に美術館の魅力をどう伝えるか、デジタル技術の活用などを含めたさらなる工夫が求められる。

意
見
等

性的評価項目チェックリスト

◎：十分、○：概ねできた、△：不十分

区分	チェック項目	達成度
1 館運営全般	1 館と本庁主管課との連絡調整を十分に行ったか	◎
	2 定例の課長会議及び学芸会議は開催できたか	◎
	3 突発的な事案に関して、課長会議等は十分に開催できたか	◎
	4 館長、課長等と館員のコミュニケーションは良好だったか	◎
	5 本庁主管課及び全館員が承知する中期・年度計画は策定したか	◎
	6 自己評価は実施したか	◎
	7 外部評価は実施したか	◎
	8 栃木県立美術館評議員会の意見等は全館員に周知したか	◎
	9 年報やホームページ等で館の運営状況を公表したか	◎
2 調査研究	1 調査研究内容について学芸課内で情報共有しているか	◎
	2 調査研究予算の獲得について努力をしたか	◎
	3 各学芸員は幅広く見聞を広めているか	◎
	4 県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	○
	5 我が国及び世界の現在の美術状況についても研究しているか	◎
3 収集保存	1 収集方針に沿った収集を行ったか	○
	2 作品の保存状況等について定期的に点検したか	○
	3 収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	◎
	4 収集作品の修復は計画的に行ったか	◎
	5 収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	◎
	6 寄贈者に対して適切な対応を実践したか	◎
	7 収集に関する情報収集は定期的に行っているか	○
4 展覧会	1 企画展・常設展は、計画に近い内容で開催できたか	◎
	2 出品リストは作成・配付したか	◎
	3 音声ガイドは順調に作成・貸出しできたか	△
	4 図録又は解説のための小冊子等を作成したか	◎
	5 展示状況について定期的に点検したか	◎
	6 入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	◎
	7 入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	8 企画展の自己評価を行い、検証をしたか	◎
	9 オリパラを念頭に置いた展覧会構想の検討を意識していたか	◎

5 普及教育	1	イベントの定期的な開催について努力したか	○
	2	参加者数は満足の数だったか	○
	3	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	◎
	4	各事業では講師等の協力を十分に得ることができたか	◎
	5	団体利用の際にオリエンテーションの実施等に積極的に努めたか	◎
	6	県教育委員会所管課との意見交換等は効果的に実施できたか	◎
	7	学校との連携をより深めることができたか	○
	8	学校の教員向けのイベントは開催したか	◎
	9	障害者の美術鑑賞の研究及び情報収集に努めたか	◎
	10	各事業の振り返りを実施したか	◎
6 施設管理	1	施設の老朽化対策等について改修計画を共有しているか	◎
	2	施設設備の危険箇所等の有無について定期的なチェックはしたか	◎
	3	館を挙げての防災訓練を実施したか	◎
	4	施設面での国際化への対応について検討しているか	○
	5	不慮の事故等に備えての保険には通年で加入したか	◎
7 中核的機能	1	県内の他の美術館・博物館等との積極的な交流を図ったか	○
	2	市町美術館等の求めに応じた、適切で親身な助言等はできたか	◎
	3	県内外の学会、研究会、委員会等に積極的に貢献したか	○
	4	栃木県博物館協会の事業等に積極的に貢献したか	○
	5	各種団体等の協力要請に、前向きな対応姿勢を示せたか	◎
	6	学芸員実習生の積極的な受入と適切な指導は図れたか	◎
8 新たな取組	1	館としての新たな取組の模索を常に意識していたか	◎
	2	外部団体等との連携の模索を常に意識していたか	◎
	3	連携による事業化を念頭に外部団体等と接触したか	◎
	4	ボランティアの活用は順調に推移したか	○
	5	ボランティアとの関係性の向上のための積極的な交流に努めたか	○
	6	他館における新たな取組等について情報収集に努めたか	◎
9 広報関係等	1	企画展毎の広報会議の早期開催について努力したか	◎
	2	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	◎
	3	ホームページ上で、必要に応じたタイムリーな情報提供ができたか	◎
	4	フェイスブック、ツイッターの活用は十分だったか	◎
	5	広報対象毎に戦略的に効果的な広報を行ったか	◎
	6	広報は衆目を集めるような魅力的なものにする配慮をしたか	◎
	7	報道関係者との交流には積極的に努めたか	◎

10 友 の 会 等	1	友の会への支援（会員増への協力など）を常に意識していたか	◎
	2	友の会とのコミュニケーションに努めたか	◎
	3	ショップの魅力向上策について検討したか	◎
	4	ショップ運営に関して進んで協力したか	◎
	5	レストランの利用促進に協力したか	◎
	6	レストランの企画展開連メニュー等に関してともに検討したか	◎